

## 三宅島の現状（その12）

平成13年8月10日

現地災害対策本部(神津島)

### 【島の現状】天皇皇后両陛下の御行啓

7月26日は天皇皇后両陛下の御行啓があり、両陛下は災害復旧中の新島、神津島を激励され、その後三宅島の被災状況をヘリコプターで上空からご視察されました。両陛下には神津島の三宅島災害対策現地本部をお訪ねいただきました。長谷川村長等から現地の様子についてご説明申し上げ、展示された写真をご熱心にご覧になり、本部で働く各機関の職員は激励のお言葉を賜りました。

8月になって、台風9号が小笠原諸島に接近しました。その影響で、6日から8日には、「波浪注意報」が発表になり、波・うねりが3メートルを超えましたが、雨、風は強くならず、島内での被害は認められませんでした。

### 【火山活動】依然多い火山ガス

火山活動については各種観測計器に異常を示すような兆候は見られません。

また、火山ガスは、日量1～3万トンと依然として非常に多く発生しています。8月2日には、レストハウス付近で瞬間値ですがSO<sub>2</sub>が23ppm、H<sub>2</sub>Sが6ppmと極めて高い値の火山ガスが検出されています。

応急復旧に従事している作業の方々や職員は時にマスクを装着しながら精力的に取り組んでいます。

8月8日22時18分及び10日03時37分、03時39分、03時54分にやや振幅の大きな微動が発生し、振幅の小さな空振を伴っていました。この微震により神着でそれぞれ震度1を観測しました。噴煙等の状況は視界不良のため確認できませんでした。

### 【復旧作業】脱硫装置設置工事を、最優先に

27日には台風6号接近のため、はまゆう丸とえびね丸を内地に避難させたため、昼間夜間ともに島内作業は中断しました。

その後、29日からうねりが残ったものの好天となったため土木作業とともに夜間滞りも再開し、砂防事業や道路啓開に当たりました。

8月には、台風9号が小笠原諸島に接近し、その影響で波浪注意報が発表になりましたが、作業は強行しました。

特に、勤労福祉会館と阿古ふるさと館の脱硫装置設置工事を、最優先に進め、9月の一時帰宅に備えています。

**【就労案内】**

村役場では就労情報を提供し広報しておりますので、就労を希望される方は三宅村民課相談係（代表03-5321-1111 内線45-640）にご相談ください。

なお、直近の情報は、ホームページ「三宅島を離れた村民のみなさま」をご覧ください。

(アドレス <http://www.miyakemura.com>)

お問い合わせ先  
三宅支庁総務課行政係  
電話：03-5320-7854

平成13年8月10日発行

# シルバーみやげ ミニ・ニュース



編集・発行  
法人三宅村シルバー人材センター  
東京都千代田区飯田橋3-10-3  
シニアワーク東京 2階  
Tel; 03-3239-4343  
Fax; 03-3512-3477

## 遺跡発掘作業に 18人就業



当センターでは、市部と比較して仕事の少ない区部に避難している会員さんのために就業機会の開拓に努めて参りましたが、この程、JR・秋葉原駅前の遺跡発掘作業という会員さんには願ってもない仕事が舞い込んできました。

「三宅の窮状をどうにかしなければ」という高齢者事業振興財団・小畑事務局長さんのかねてからの熱い思い入れに、東京都埋蔵文化財センターの佐藤部長さん、鴻池建設の福田部長さん共々深いご理解を示され、今回の契約にこぎつけたものです。

秋葉原といえば、全国に名の知られた電気店街。一度は行ったことがあるという会員さんもきっと多いことでしょう。その電気店街に隣接する青果市場跡地の遺跡発掘現場で1



8人の会員さんが、元気いっぱい就業を開始しました。

作業の様子は、山手線・内まわりのホームからもよく見えるところで、駅周辺の再開発に先がけて東京都が実施する埋蔵文化財の発掘作業です。これまで駐車場やイベント広場として開放していた広大な都有地の一角が今回の調査対象になっていて、この7月はじめからスタートした調査は、作業員約70名で来年の3月いっぱいまで続きます。

埼玉県から1時間半もかけて通う加藤幸子さんをはじめ、支庁OBの栗原日出一さ

ん、郵政OBの三宅俊三さんの3人は、いずれも長年当センターの現場を支えてきたベテラン中のベテラン。

7月12日、この3人をリーダーに第1陣の10人が現場入りしました。

その頃から東京は、記録的な猛暑に見舞われ、50cmほど掘り下げられた発掘区画の中は、にじみ出る汗も蒸発してしまいそうな熱気。現場に立った宮下主事も顔を真っ赤にしながらか、「局長、これじゃ会員が可哀想だよ。」と真剣な眼差しで訴える程でした。

第2陣の8人は、殆どが桐ヶ丘の遺跡発掘の経験者。桐ヶ丘を終って1週間休養の後、8月6日には第1陣と合流して現在18人の会員さんが、ほかの仲間負けじとばかり、シルバーパワーをいかに発揮しています。

会員さんは口々に「イーグル建設のマル

平成13年8月10日発行

さん(註=現場責任者)が、いつも見ていてくれて、無理しなくていいよって、声をかけてくれるから嬉しいよ。健康診断もしてもらったしさあー。」と照りつける真夏の太陽を背に笑顔で話してくれました。

しかし、安心してばかりはいられません。「熱中症は、自分の注意で未然に防ぐことができる。」と云われています。これからもしばらくの間炎天下での作業が続きますが、皆さんの健康を一番心配しているの

は会社の方々です。適切な予防を心がけて全員揃ってこの夏を乗り切り、安心させてあげたいものですね。

先日、現場を訪ねたとき、会社のある方は「三宅の人は一生懸命ですね。顔色を伺いながら仕事をする人は一人もいません。

陰・日向のない仕事ぶりは、お手本にしたいくらいですよ。」と話していました。

この言葉に、暑さもいっぺんに吹っ飛ばしてしまいました。

☆雄山の噴火が落ち着いて  
皆んな揃ってニコニコ顔  
で先祖参りと致します

☆今日も暮れゆく別所の  
街にネオンの灯るころ  
想い出しては涙する  
悲しい三宅よ我が家よ

☆あんな住みよい  
三宅と連れわれ八王子  
別所で世話になる  
坪田 木村シズエ

会員の木村シズエさん(八  
十四歳)から故郷への想いを  
綴った唄が寄せられました。  
八王子のアパートで娘さん  
ご夫婦と三人暮らしで、なに  
一つ不自由はないけれど、思  
い出すのは島のことばかり。  
募る想いを切々と唄い上げ  
ています。

### チドリ・工事をストップ

6月のはじめ頃、秋葉原駅前の遺跡発掘現場で、作業員が荒れ果てた砂地の上に、一羽のチドリが卵を温めているのを見つけ

て、びっくり仰天。照りつける初夏の日差しにじっと耐えているけなげな姿に、関係者は、さてどうしたものかと思案投げ首。そうこうしている内に、「雛が巣立つまで、作業を中止せよ」とのお達しに、またまた

びっくり。2羽の雛が無事巣立ったのは、それから3週間後だったという。一服の涼風を誘う現場の粋な計らいとはいえ、工事の遅れを招いた、とんだチドリ騒動でした。



### 平成13年6月分事業実績 (単位:円)

月	区分	受託 件数	就業延 日人員	契 約 金 額			
				配分金	材料費	事務費	計
6	公共	1	71	262,700	36,400	10,650	309,750
	民間	10	133	810,950	0	0	810,950
	計	11	204	1,073,650	36,400	10,650	1,120,700
累計	公共	3	207	767,300	36,400	31,050	834,750
	民間	19	266	1,630,244	0	19,784	1,650,028
	合計	22	473	2,397,544	36,400	50,834	2,484,778

## 保健婦さんの紹介

「始めまして、よろしくお願い致します。」

東京都島しょ保健所三宅出張所 保健婦 小杉真紗人

今年4月、府中小金井保健所から三宅の保健所に来ました。

「げんき農場」が開設されて、そこで働く方々の「健康管理・相談のお手伝いが出来れば」と、5月から月に2回「げんき農場」に通っています。最初の頃、皆さまの血圧測定をして、余りにも異常な方が多いので、内心びっくりしていました。それが

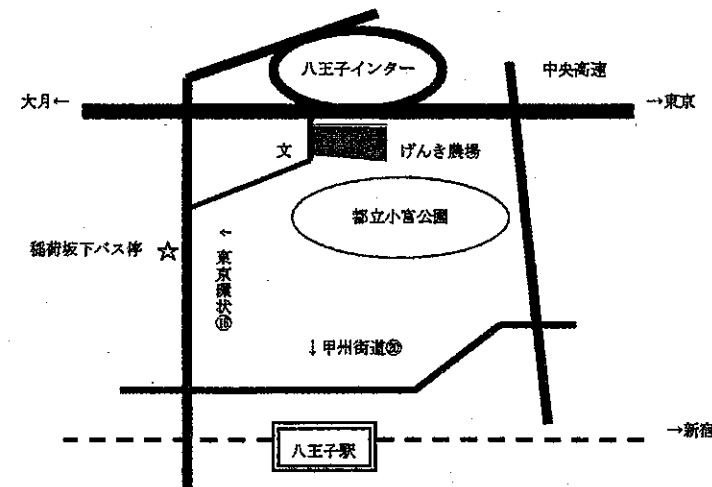


1~2ヶ月過ぎると、それなりに血圧も安定して体型の引き締まった方が目に付くようになりました。仕事に就くことによって生活が規則正しくなり、人と楽しく交流できることがきつと体にも良いのでしょう。

私にとって農場は、いろいろな発見や三宅島の人から教えてもらうことが沢山あってとても楽しい場所です。特にサトイモのわき芽を取り除くとサトイモが大きく育ち、しかもそのわき芽が食べられることを始めて知りました。6月のある日、4~5本頂いて帰り、味噌汁に入れました。美味しかったです。

殊の外厳しい暑さが続いています、どうぞ健康に留意して、みんなそろって元気で三宅島に帰ることを祈りながら、お互いに助け合って行きましょう。

## げんき農場周辺案内びアクセス



・電車・バスでのご来場  
JR八王子駅「北口」⑫番バス  
乗り場  
(純心学園行きをのぞく)  
「稲荷坂下」下車徒歩10分  
ひよどり山中学付近

・車でのご来場  
中央自動車道八王子インター  
南下車  
東京環状16号線を南下  
ひよどり山中学校付近

☆「げんき農場」で働いている島の人達と交流して見ませんか？  
農場見学を歓迎いたします。(土・日・祝祭日を除く、10:00~17:00までの開園時間内)

第4号

## 三宅島「げんき農場」だより

平成13年8月15日発行

発行元三宅島げんき農場

八王子市宇津木町236-1

TEL 0426-27-4355

## 〇花も実もある見事な畑になりました

夏休みも後半に入りましたが、げんき農場では花や野菜が実りの時を迎えています。農場入り口付近ではヒマワリが2メートル前後にまで育ち、黄色い花を着けました。これは、ボランティアから島民に送られた絵袋の種が農場に集まってきて、場員によって大切に育てられたものです。



一歩農場にはいると、ピンクやオレンジ色のジュウタンが広がります。ポーチュラカ(花すべりひゆ)という植物で、都内の育種家から寄贈されたものを挿し木で増やしました。場内でひときわ目を

引くのは、黒玉スイカ「タヒチ」です。大きいものでは12kg、糖度も12度以上と甘みも抜群です。この種類は、昨年から人気が急上昇しているもので、農場では8月20日前後まで食べ頃です。このほか、島特産の赤芽イモも順調で、株元には子芋も芽吹き始めました。サツマイモの生育もよく、芋の肥大を助けるために蔓返しを行っています。秋作に向けては、コスモスの種をまきました。発芽揃いもよく「秋桜」の別名どおり9月下旬から10月いっぱい、たくさんの花を楽しめることでしょう。隣接する都立小宮公園を散策するついでに、農場を訪れる方も増えています。交流の森や看板周辺では、一般の方が場員に声をかける風景も見られます。このように、げんき農場は就労の場だけでなく、交流の場としても成長をとげました。皆さんも、お誘い合わせのうえ、げんき農場にお越しください。

## 「げんき農場」後期分雇用者募集中!!

前回の「げんき農場だより」でお知らせでしたとおり、現在げんき農場では後期の雇用者の方を募集しております。

応募資格は三宅島から避難されている島民の方で、農作業の出来る健康な方(なお前期で働いた方は応募できません。)で、勤務期間は平成13年10月2日から平成14年3月29日までとなっております。

勤務条件等詳しくは、前回広報同封の募集のご案内をご覧ください。

げんき農場後期募集問い合わせ先

三宅村新宿総合事務所産業観光課

TEL(代)03-5321-1111(内線)45-660

(直)03-5320-7829



「楽しいげんき農場の日々」

横倉 三雄（稲城市向陽台在住：阿古）

「げんき農場」に通い始めて3ヶ月余りが過ぎた。このごろは、都会の通勤電車にも慣れ、乗換えもスムーズになって、バスに乗る集合場所にも同じ時間に着くようになった。着くともう、みんなの元気な顔が揃い、朝の談笑が始まっている。「今日一日頑張ろう」って言いながらバスに乗り込む。バスの中でも笑い声が絶えない。

私は、会社勤めから定年後に、小鳥さえずる緑の美しい山と青い海に憧れて三宅島に移住してきた。3年半後に今回の噴火に遭い、山の自然の恐ろしさに遭遇した。

島では地域の人達や近所の付き合いも良くして頂いたので、この災害でバラバラになるのが心配だった。しかし、この「げんき農場」に参加して、島の人達の中に入り多くの方と仲間にもなり、島の言葉も少しづつ理解できるようになった。

今「げんき農場」は、夏草取りとカラ梅雨の影響による作物への水補給で、炎天下の中みんな頑張っている。植付けたサトイモ、サツマイモ、アシタバなども大きくなり、成長してきた。収穫が楽しみだ。

今日も一日楽しい「げんき農場」で働かせて戴き感謝し、心地よい疲れを感じながら帰途のバスに乗り込んだ。帰島できるまで頑張ろう。



「農場で“心の温もり”」

小島 富久栄（武蔵村山市緑が丘在住：神着）

農場に行く日には曆に『○』をつけ、弁当を持ってバスに乗り、立川で友達と待ち合わせ「げんき農場」の一日が始まります。

いつもの通いなれた道。みんなの顔を見ると三宅にいるような気分になり、様々な出来事も忘れさせてくれて、楽しく過ごす毎日です。そして元気を与えてくれた農場は、何物にも代える事ので

きないほど、人の心の温もりをもらって毎日頑張る事ができました。楽しかった日々、苦しかった日々もありましたが、「げんき農場」での事は忘れることのできない風景になりました。

農場での生活も残り少なくなり悲しい！

もっとこの時間が欲しい！

夢のある農場で働きたい！

皆の笑顔と別れたくない！

そんな日々が近づいてきました。

農場の冬はどのような冬なのか、冬も見てみたい気持ちでいっぱいです。

心に印された農場が風景となり、いつまでも心に残ることでしょう。唯一、残念で心残りなのは、私達が手掛けたサトイモや、サツマイモなどの農作物を、私達の手で収穫をすることが出来ないことです。



○収穫されたカボチャ・スイカ・ウリ等

今年の5月10日「げんき農場」が開園してから、3ヶ月が経過しました。植え付けられた苗や種も順調に育ち、ここに来て初となる収穫の時を迎えております。現在は、夏野菜のスイカ、メロン、カボチャ、オクラやエダマメなどが収穫されております。中でもスイカは充分な甘味もあり、12kgもの大玉も収穫され素晴らしい出来映えに関係者も驚くほどです。今年は、例年にない暑さが続いて作物にも影響が出ていますが、畑に敷き草を巻いたり水をまいたりして乾燥を

防止する作業を行っております。このような場員の熱心な管理もあって、サトイモなどは近隣の農家が感心するほど立派に生育しています。サトイモ・サツマイモ・アシタバなどの収穫は10月ごろからになりますが、これらは種苗として確保するほか、イベントなどを通じて島の農産物や観光のPRに活用する予定です。なお、8月9日には島の方々がお世話になっている八王子市内の介護老人保険施設に農場からの初収穫のスイカをお届けしました。



○ワケネギとビニールハウス

緑陰よもやま話し（くつろぎの中での会話から…）

前号（2号）のつづき

「交流の森」で、宮澤イセ子、森サト子、谷ミナ子、桜田きえ、宮沢邦江、宇賀神けい子、前田優子の7人の皆さん方の笑い声が聞こえてきたので、近くに行って一寸聞き耳を立てました。

○三宅島には40年位前までは、千葉県、三重県などの各地から大勢の女の人達が“てんぐさ”採りに来ていましたよネ。その中で島の男性と結ばれた人随分いましたよ。島の男衆は、皆んな心が広く大きい気持ちを持った男らしい人が多かったですネ。（皆さんうなづく）

○昔は今ほど男女の仲がオープンでなかったもので、2人で手をつなぐことも人の目を気づかって、隠れるようにしてソット手をつないでいたようでしたネ。



### 「私とげんき農場」

寺沢 シゲ子（八王子市上柚木在住：阿古）

全島避難してから11ヶ月、「げんき農場」で働き始めて3ヶ月が過ぎようとしています。早いものですね。私は八王子市上柚木にお世話になっている者です。

げんき農場に通い始めた頃は、ほんとうに右も左もわからなくて、これから先、1人でげんき農場まで通えるのだろうか、と、すごく不安でした。

でも「げんき農場」に行けば三宅の人に逢える。あの人もいる、この人もいる……。ただそれだけで、毎日通うのが楽しくなりました。そこには気心の知れた、昔ながらの顔があるからです。

先日、道端の『あじさいの花』をそっと一輪とって、手のひらに乗せてみました。すごくきれいな花で、なつかしくなり何か、しばらく忘れていたものを思い出したような気がしました。

「そうだ、島でも今ごろはあじさいの花が、島のあちこちできれいに咲いているだろうな。」ふっと思い出したら、とても懐かしくなり無性に帰りたくなりました。いつになったら島に帰れるのだろうか？……。でも今は「げんき農場」で、自分達の植えつけたサトイモ、サツマイモを自分の手で掘ってみたい!! 収穫が楽しみで、暑さも忘れて毎日元気に「農場」に通っています。できることならば、10月以降も引き続いてずっと「げんき農場」で働きたいと願っています。

今は、「げんき農場」のおかげで、慣れない都会の生活の中でも、とても充実した幸せな毎日を送っています。

このような場所を提供して下さった東京都や八王子市など関係の方々には、「本当に有難うございました。」と、お礼を申し上げます。どうぞ、これからもよろしく願いいたします。

島に帰れる日まで、「げんき農場」で頑張るぞー。!!



### 「帰島を楽しみに」

高松 かず子（立川市上砂町在住：伊ヶ谷）

三宅島から避難してから、とうとう1年が過ぎようとしています。各関係の皆さん方のお蔭で「げんき農場」で働く事が出来て、大変ありがたく感謝しています。私ども農業で生計をたててきた者にとって土にふれ、作物の成長を見られると言うことは、金銭には変えられない喜びがあります。

島での生活とちっとも変わらないような大きな声で話しあい、そして笑うなどして、いつときでも避難

生活をして元気を取り戻しています。しかし、ここで働けるのもあと1ヶ月半を残すだけとなり、収穫を見ずに終わるのが非常に残念な気持ちでいっぱいです。ここで取り戻した元気を維持しながら、三宅島に帰れるまで頑張りたいと思っています。これから1ヶ月半後の生活を考えると不安にはなりますが、一時帰島を楽しみに頑張っていこうと思っています。

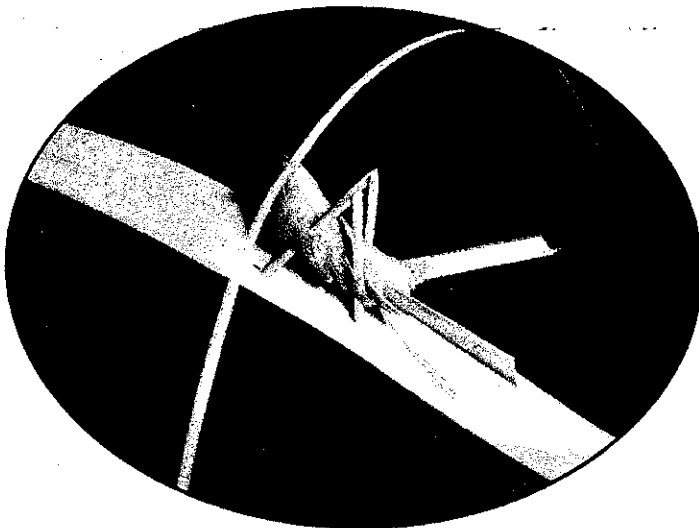


### 「作物との対話」

田中 守節（八王子市別所在住：坪田）

毎日の日照り続きの中で、暑さに負けずに育ったサトイモ、サツマイモは見事な出来栄だ。そっと耳を近づけてみるとサトイモの声が聞こえてくる。「みんな見てごらんよ。私のこの立派に成長した姿すばらしいでしょ、場員みんなのお陰ですよ。ありがとうございます。」畑に近寄れば寄るほどその呼び声が聞こえてくる。「私の足元を良く見てごらんよ、わき芽がいっぱい出ているでしょう、私の子供だ。みんなが、びっくりするほどすばらしい立派な子供だ。この子達を恩返しに皆さん方にご馳走するから収穫する日まで待って下さいよ。」サトイモは再び言う「散歩に来る人達もすばらしいサトイモだね、と声を掛けて通り過ぎていくよ。立派に育ってくれてありがとうございます。」「でも残念な事が一つある、それはアシタバだ。発芽の時期にはすばらしい出来栄になるぞ、と安心して喜んでいたので毎日の暑さに負けてしまった。残念ながら仕方ない、それでもまだまだ頑張れば立ち直れるかもしれないあきらめないで頼むよ・・・。」と涙を流してお願いしてる様だ。場員がみんな水掛や日除けの藪草竹立てに汗を流している。アシタバを助けるためにも隣畑のサトイモが見ているからなあ・・・。それに、サツマイモ畑にも頑張っている。見事だ、蔓が畑いっぱい張っているの暑さにはもう大丈夫だろう。収穫の 때가待ち遠しい、その時にはサツマイモも大声を上げて叫ぶだろう。「島の人達よ、みんなで腹いっぱい食べておくれよ、島で食べるよりきつと、おいしいと思うよ。我慢できそうさ。」サトイモよ島に帰れるのは何時になるのか解らないけれど、お前が収穫できる頃には帰れると思うよ、その時にはお前達を袋いっぱい詰め込んで一緒に帰ろう。三宅島も諸手を上げて迎えてくれるだろう。それからがお前の出番だ。島の復興の為の大事な大事な島の産物だからね。サツマイモもアシタバも同じだ、島の畑も何時来るのかと待っているだろう。生きるために、自然に負けることなく頑張ろうね。今後島で生きてく子供、孫たちにの為にも!!

### — チガヤで作った「キリギリス」 —



「宇賀神さん」が造った作品です。

農場で働く島民の人達が皆で、昼休みを利用して“チガヤ”を使った「キリギリス」を作成しました。講師は場員のひとりで「宇賀神けい子」さんです。

チガヤに霧吹で霧を吹きかけ湿らせてから手で伸ばし、順序良く折り曲げていくのですが、細かい手作業なので葉が千切れてしまったり、手順を間違えたりして上手に作れなくて、一同苦労していましたが、昼休み中の短い時間でもありながら、とても上手に出来ていました。